

1-2-5 魚類

現地調査計画

調査の目的

対象事業実施区域及びその周辺並びに下流河川に生息する魚類の生息状況を把握するため調査を実施しました。

魚類相調査は、対象事業実施区域及びその周辺を流れる額平川・宿主別川・総主別川、対象事業実施区域上流の額平川・宿主別川、対象事業実施区域下流の額平川を対象に、河川域の魚類相の把握を目的として行いました。

重要な種調査は、過年度調査で生息が確認された魚類重要な種の内、シベリアヤツメ(準絶滅危惧種：環境省レッドデータブック、希少種：北海道レッドデータブック)に関して、より詳細な分布状況の把握を目的として行いました。

重要な種のサクラマス調査は、額平川水系におけるサクラマス幼魚の分布状況を把握する目的で実施しました。また、対象事業実施区域及びその周辺の支流域を中心にサクラマスの産卵実態の把握も行いました。

ここでは、平成 16 年度に実施した調査のうち、10 月までの調査結果を報告します。

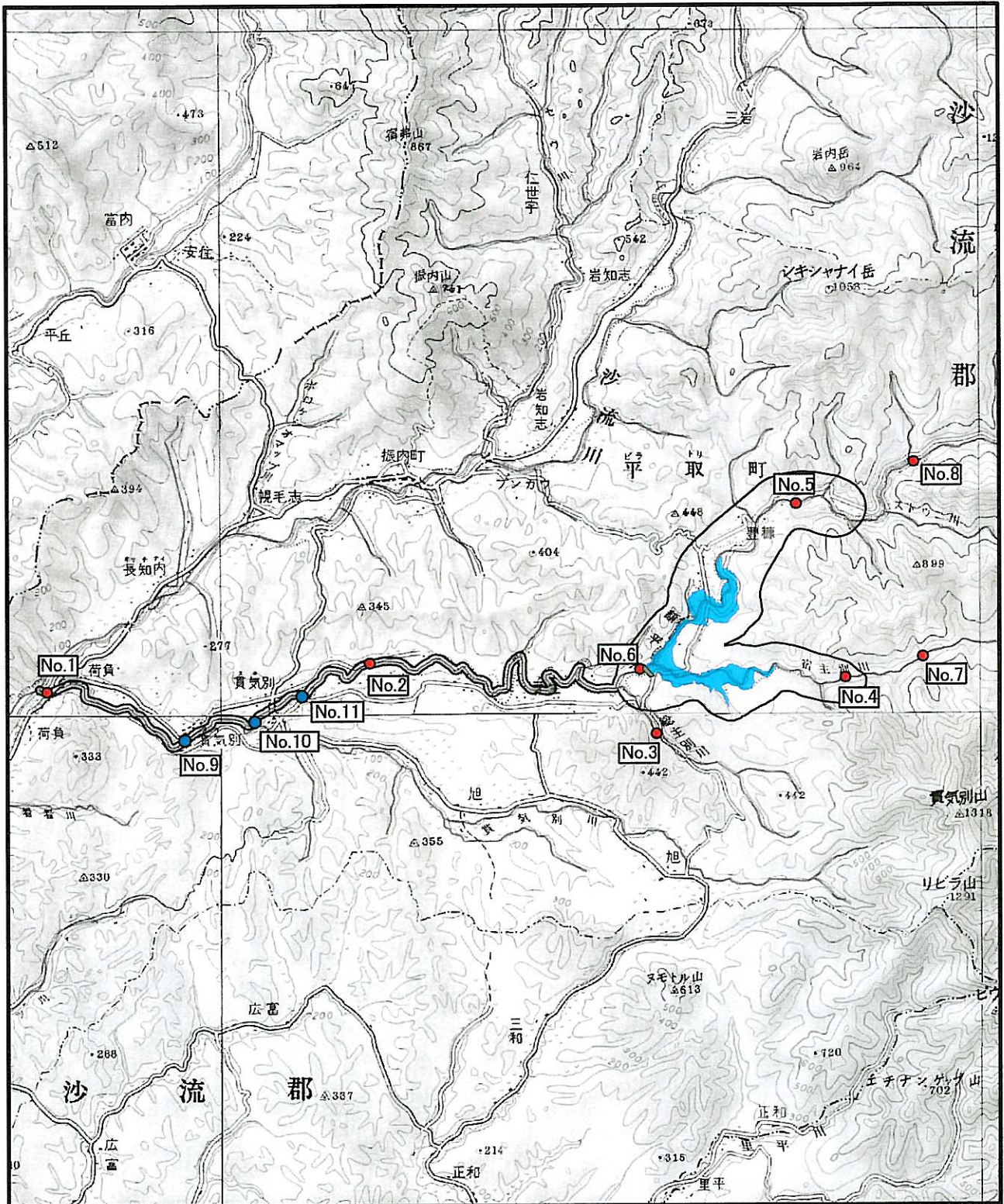
調査の方法








調査項目	調査方法	
魚類相	捕獲調査	投網、たも網及び電気ショッカーを用いた捕獲により行った。
重要な種 (シベリアヤツメ、 スナヤツメ)	捕獲調査	過年度及び 6 月、7 月の調査でシベリアヤツメの成体及びヤツメウナギ属の幼生が確認された額平川下流及び額平川中流の範囲内を対象として、任意に捕獲を行った。
重要な種 (サクラマス)	幼魚分布 調査	幼魚の分布調査は、投網および電気ショッカーにより採捕した。
	産卵床 調査	目視による産卵床および遡上親魚の確認を行った。

調査日程

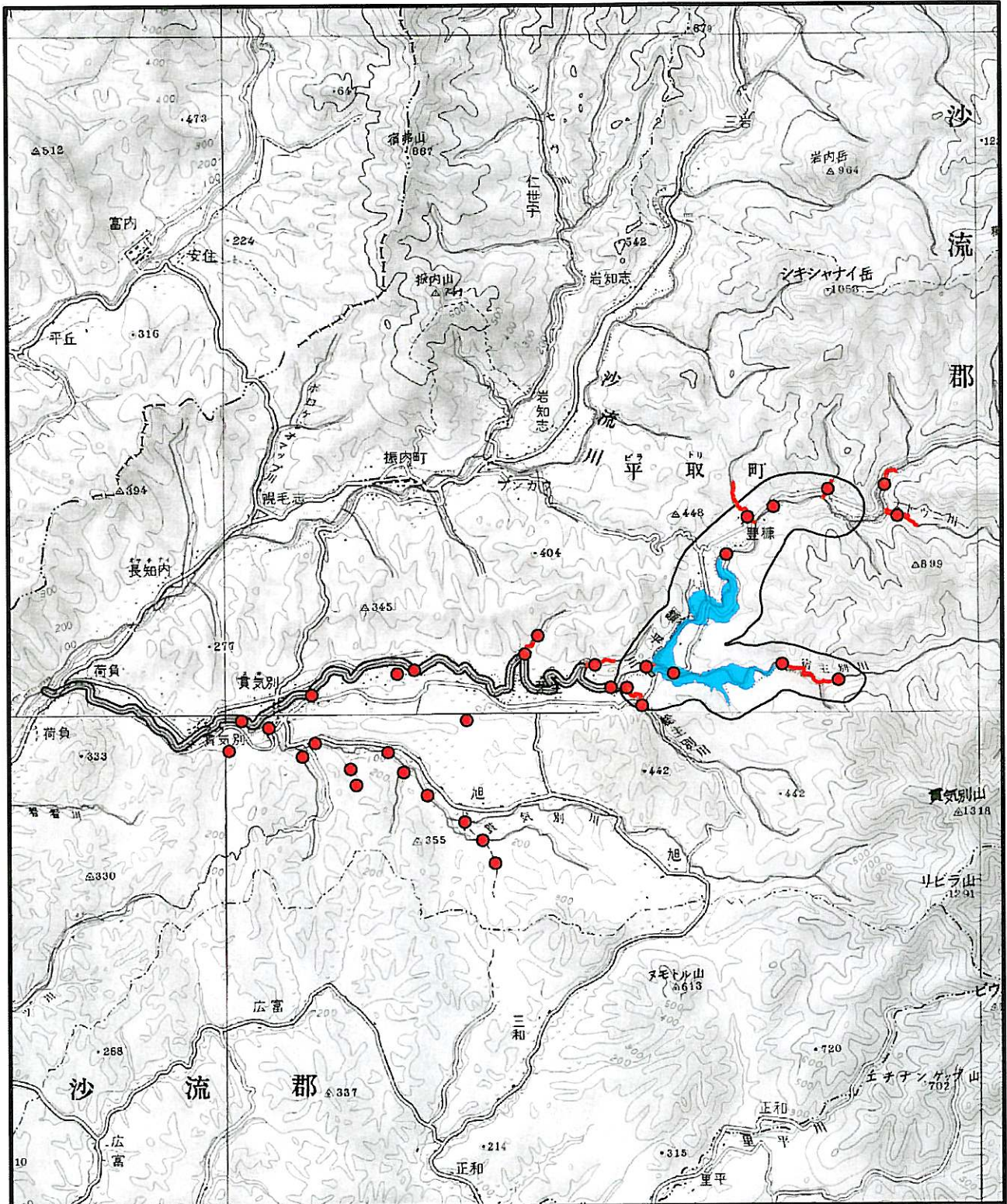
調査項目	調査時期
魚類相	平成 16 年 6 月 10 日～11 日 平成 16 年 7 月 27 日～31 日 平成 16 年 9 月 21 日、28 日～10 月 1 日
重要な種 (シベリアヤツメ、 スナヤツメ)	平成 16 年 10 月 8 日、9 日
サクラマス 幼魚分布調査	平成 16 年 6 月 22～23 日、28～29 日 平成 16 年 7 月 1～2 日 平成 16 年 9 月 16～17 日、21～24 日 平成 16 年 10 月 6 日
サクラマス 産卵床調査	平成 16 年 9 月 17、21～24 日

1. 平成16年度調査結果について






凡例		 Scale = 1:150,000 
 ダム堤体  貯水予定区域  調査地域	 調査地点(相調査)  調査地点(重要な種 シベリアヤツメ、スナヤツメ)	
<p>魚類相及び重要な種（シベリアヤツメ、スナヤツメ）調査地域・調査地点</p>		

1. 平成16年度調査結果について



凡例

-  ダム堤体
-  貯水予定区域
-  サクラマス幼魚調査地点
-  サクラマス産卵床調査
-  調査地域



Scale = 1:150,000

0 2 4 8 km

重要な種（サクラマス）調査地点

平成 16 年度調査結果

魚類相調査

調査の結果、下表に示す 6 科 9 種の魚類が確認されました。

科名	種名
ヤツメウナギ	シベリアヤツメ
	ヤツメウナギ属の一種
コイ	エゾウグイ
	ウグイ属の一種
	モツゴ
ドジョウ	フクドジョウ
サケ	アメマス
	サクラマス
カジカ	ハナカジカ
ハゼ	ジュズカケハゼ
	ヨシノボリ属の一種
6 科	9 種

サクラマス調査で確認種を含む

調査の結果、特に多く確認されたのはフクドジョウ、エゾウグイ、ヤツメウナギ属の一種でした。フクドジョウはいずれの調査地点でも多く確認されました。ウグイ属の一種、エゾウグイは額平川で多く確認され、ヤツメウナギの一種は額平川の下流部で多く確認されました。

調査地点	No.1			No.2			No.3			No.4			No.5			No.6			No.7			No.8			No.9	No.10	No.11	合計	
	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月	6月	7月	9月					
シベリヤヤツメ																									2	1	3		
ヤツメウナギ属の1種	3	4	6		2	3																			5	8	8	39	
エゾウグイ		7	6		5	5							1	1	3	15	2											45	
ウグイ属の1種	2	26	8		1	3							2		1		1	8										52	
モツゴ			3																									3	
フクドジョウ	10	10	11	7	18	16		7	8	1	8	5		9	19	4	12	19	14	4	5		4	15				206	
アメマス											1																	1	
ハナカジカ								1	1																			2	
ジュズカケハゼ			1																									1	
ヨシノボリ属の1種			1																									1	
合計	種数	3	4	7	1	4	4	-	2	2	1	2	1	1	2	3	2	3	3	1	1	1	-	1	1	1	5	1	8
個体数		15	47	36	8	30	27	-	8	9	1	9	6	2	10	21	7	28	29	15	5	5	-	4	15	5	10	9	329

重要な種調査

重要な種として、下表に示す 4 科 4 種が確認されました。

科名	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RDB	北海道 RDB	確認状況
ヤツメウナギ	シベリアヤツメ			準絶	希少	重要な種調査を実施した 10 月に額平川下流の No10 で 2 個体、No11 で 1 個体が確認された。
コイ	エゾウグイ				留意	額平川下流部の No1 で 13 個体、No2 で 10 個体、No5 で 2 個体、No6 で 20 個体が確認された。
サケ	サクラマス				留意	重要な種（サクラマス）調査で確認された。
カジカ	ハナカジカ				留意	総主別川の No3 で 7 月及び 9 月に各 1 個体が確認された。
4 科	4 種	-	-	1 種	4 種	

表中の重要な種の略号

環境省 RDB

準絶：準絶滅危惧（存続の基盤が脆弱な種）

北海道 RDB

希少：希少種（存続基盤が脆弱な種または亜種）

留意：留意種（保護に留意すべき種または亜種）

重要な種（サクラマス）調査

平成 16 年調査の結果、額平川水系におけるサクラマス幼魚の出現状況は、6 月は 34 地点中 8 地点計 17 尾、9 月は 34 地点中 6 地点計 11 尾にとどまり、極めて少ない状態でした。サクラマス当歳魚の出現は 6 月、9 月ともに 2 地点に限られ、採捕数は極めて少ない状態でした。

調査期間中、調査範囲の大部分で濁りにより透明度が低かったため、サクラマスの産卵床は確認できませんでしたが、宿主別川で親魚が 2 尾、額平川下流で親魚 1 尾が確認されました。